



— vol.39 —

12月のテーマ 写真家 山崎エリナさん

県内の土木現場に密着した写真集が注目を集めています。撮影したのは世界的に活躍する写真家の山崎エリナさん(神戸市出身)です。今回は山崎さんに話を聞きました。

未知の世界に好奇心

「なぜ土木現場の写真を撮ることになったのですか。」

福島市の建設業の社長からの依頼がきっかけです。元々は路地裏や町並み、人々の何気ない暮らしなどを撮ることが多いのですが、その社長は「こんな風に情緒的な写真を撮る人が、土木の世界を撮ったらどんな写真になるだろう」と思ったそうです。私の方は未知の世界を「知りたい」「おもしろそう」という好奇心で引き受けました。また、神戸市で阪神淡路大震災を経験しているため、東日本大震災で大きな被害を受けた福島のことはずっと気になっていました。道路の復旧・補修現場の撮影という依頼内容を聞

き「福島のために何かできるかもしれない」と感じ、ぜひやらせてほしいと思いました。

「一実際、現場で撮影をしてみても、いかがでしたか。」

阪神淡路大震災で倒壊した高速道路や建物が数年後にはきれいに復活していたのを目にしていたのですが、その時は「誰かが直してくれたんだな」と思う程度でした。今回、実際に危険と隣り合わせの現場で働く人々の、真剣な表情や仕事ぶりに触れ、今まで当然に思っていた「安全な道路」は、こういう人たちが守ってくれていたのだと気づき、言葉では表現しきれない感謝があふれてきました。極寒の冬



インフラメンテナンスの現場撮影を振り返る山崎さん

も、真夏の炎天下でも、冷静にやるべきことをこなす精神力と体力、難しい技術を使いこなす知識や集中力。この素晴らしい力が集結したものが、私たちの「当たり前」を支えてくれているんです。気付けば「この人たちの使命感、誇りを伝えなくては!」と、夢中でシャッターを切っていました。

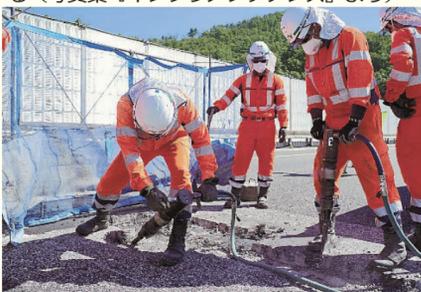


トンネルを掘削する様子(写真集『トンネル誕生』より)

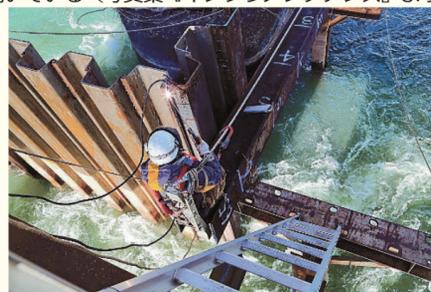


コンクリート打設前に防水シートが張られたトンネル内は照明が反射し、幻想的な世界を描き出す(写真集『トンネル誕生』より)

真夏の高速道路工事現場で、オレンジ色の作業服をまとった作業員は宇宙映画のヒーローと重なる(写真集『インフラメンテナンス』より)



橋の工事現場では、勢いよく流れる川の上で強風にさらされながら、命綱をつけた技術者が安全を守るため働いている(写真集『インフラメンテナンス』より)



被写体に寄り添う

「土木現場写真の反響はいかがでしたか。」

作品をまとめた写真集は、県内の書店で写真集部門の売り上げトップになるなど、好評をいただいています。福島市や全国各地で開いてきた「インフラメンテナンス写真展」では、涙を流しながら感謝を口にする人も少なくありません。高度成長期に整備された多くのインフラは一斉に老朽化が進み、それを維持、補修する人材や費用が不足しているなど、大きな課題があります。作品を見た人に、土木業界が「かっこよくて尊い仕事」であることを知ってもらい、そんな課題の解決に少しでもつながるといいと思います。

「福島県では他にどんな撮影をしましたか。」

2007(平成19)年にポーランドで写真展を開催した際、三春町の関係者と知り合った縁で、5年後に町を訪れました。そこで当時93歳の鍛冶職人さんに密着し、一日の営みを撮らせてもらったことは、印象的な思い出です。2018(平

成30)年には檜枝岐村で、江戸時代から伝承される「檜枝岐歌舞伎」の撮影、PRにも携わりました。練習風景や楽屋で支度する様子なども見せてもらい、父から子へ歌舞伎の所作を教える姿には胸が熱くなりました。村の人たちで作り上げる歌舞伎には心を揺さぶるものがあります。最近では、福島市の国重要文化財「しゃがむ土偶」を撮影した写真が巨大タペストリーとなり、現在、市内のじょーもびあ宮畑や福島市役所に飾られています。

「土偶の写真も評判を呼んでいますね。」

実は、インフラ現場撮影の合間に何気なく撮った写真だったので、とても大きなタペストリーにさせていただき、驚いた。土偶の姿勢は、お産か、祈りの動作を捉えていると聞き、神秘的な愛らしさを感じました。「どう撮ってほしい?」「こっちの角度がいい?」など、話しかけながら撮影していくうちに、土偶が「撮ってもいいよ」と応えてくれた

気がしたんです。写真を見た人からも「語りかけてくるようだ」と言われました。

「山崎さんの写真にはぬくもりや熱量、呼吸までを感じさせる不思議な魅力があります。」

常に被写体に寄り添うように心がけていて、撮る人、ものに対し、自分がどう感じるかを大切にしています。作品を通じてそういう気持ちを感じ取ってもらえているのであれば、とてもうれしいです。

「これから撮影してみたい場所や人、もの、はありますか。」

福島はおいしい日本酒が多いですね。酒蔵を巡り、杜氏(とうじ)の皆さんを撮らせていただいたり、日本酒の飲み比べも楽しんだりしてみたいです。



撮影した写真が使われたタペストリーに目を細める山崎さん

次回は1月20日に掲載。テーマは「ワイン」

健康メモ

婦人科 三大漢方薬

当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)、加味逍遙散(かみしょうようさん)、桂枝茯苓丸(けいしぶくりょうがん)は婦人科三大漢方薬といわれます。当帰芍薬散が虚証(抗病反応が衰えていて体力も低下)、桂枝茯苓丸が実証(抗病反応が盛んで体力もある)で、加味逍遙散が中間証です。月経困難症は「血(おけつ)」「(血の滞り)とされています。桂枝茯苓丸は瘀血の代表的な薬です。当帰芍薬散は水滯(生体内の水のバランスが過剰)、血虚(血が不足)に効きます。(野口まゆみ西口クリニック婦人科院長)

山崎エリナさんプロフィール

やまざき・えりな 神戸市出身。阪神淡路大震災を機に写真家を目指し、渡仏。フランスを拠点に写真活動に専念。40カ国以上を旅し撮影を続け、帰国後に国内外で写真展を開催。写真集を多数出版。ポーランド・クラフク美術館に作品を収蔵。フランス・ルーブル美術館の「パリ写真フェスティバル」で作品展示。ポーランドの世界的映画監督・故アンジェイ・ワイダ氏、音楽家坂本龍一氏ら著名人のファンも多い。2017(平成29)年から県内の道路やトンネル、橋などインフラの維持補修の現場を撮影し始め、写真集『インフラメンテナンス 日本列島365日、道路はこうして守られている』『トンネル誕生』を出版。



農業用水のための水路トンネルの補修工事。冬に補修し、春からの畑仕事に備える(写真集『インフラメンテナンス』より)

山崎エリナさんの「インフラメンテナンス」写真展が二十八日まで、福島市のアオウゼで開かれています。道路やトンネル、橋などの維持補修工事現場

28日まで 福島で写真展

場を収めた写真や、全国のトンネル工事現場から集めたトンネル貫通の瞬間写真などを展示しています。問い合わせはアオウゼ 電話024(533)2344へ。



山崎エリナさんの最新写真集「トンネル誕生」(分冊)が、税込み二千四百二十円。写真集を五人にプレゼントします。川俣町の二一四号国道・市太田町一三二一七

山崎さんの写真集5人にプレゼント

泡吹地(あわふくじ)トンネルの工事現場で、約一年半かけて撮影した作品が収められています。はがきに①郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号②お申し込み用紙③郵便番号960-8602、福島市太田町一三二一七

面担一宗像